



心法
教訓

今昔道集

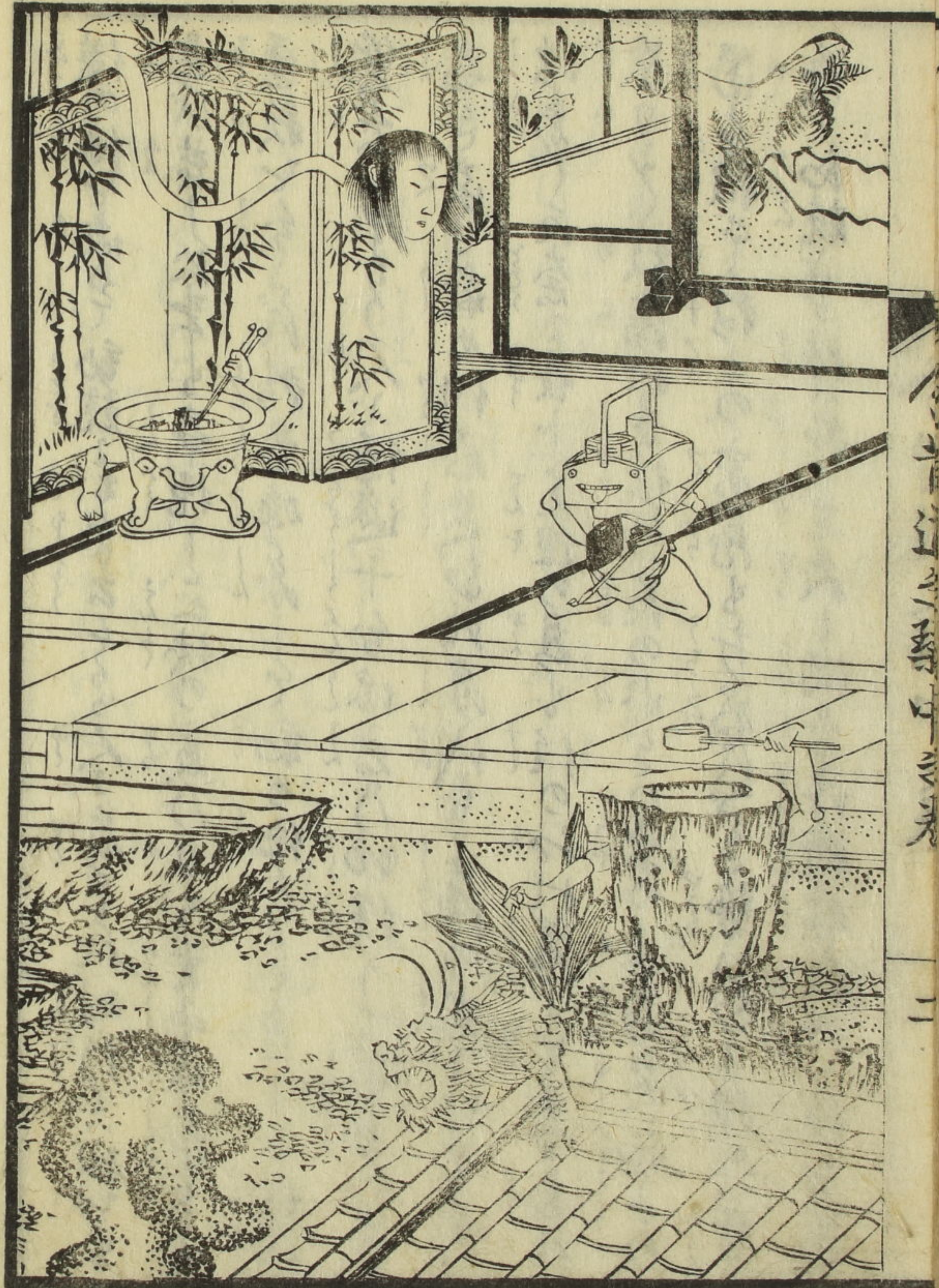
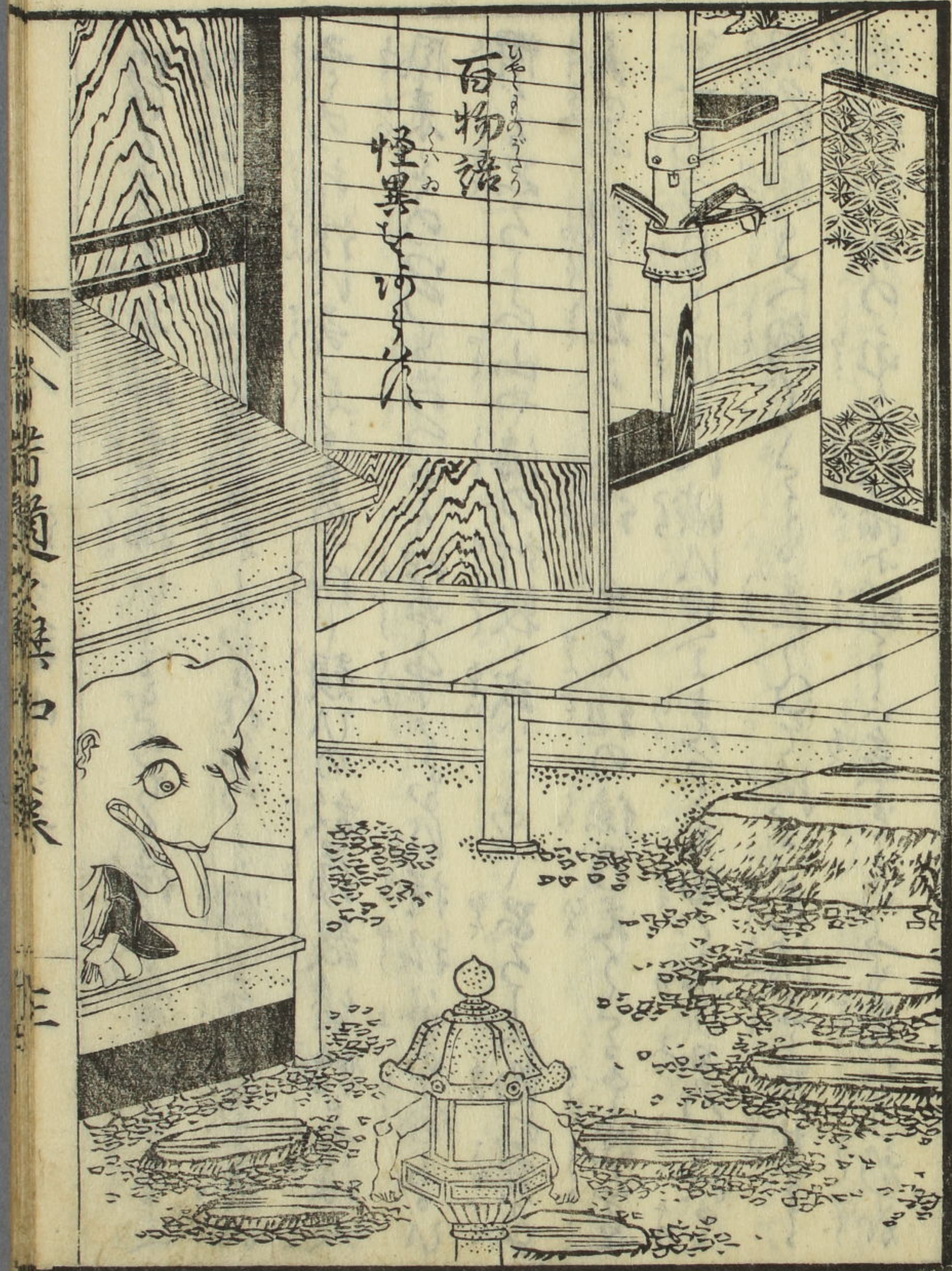
中

9
3897
2



け物語、幼穉の者乃耳小狭、至て寧幸の中、に思ふも、なれは
今、教の、あらふて、今も、か、申す、の、り、信、仰、の、ま、ご、て、人、の、徳、や、徳、の
天、より、来、る、地、より、も、涌、出、さ、る、を、より、是、を、救、め、て、或、は、怒、り、を
亦、は、怒、り、て、生、津、と、波、る、の、り、ま、と、ま、ふ、人、の、心、を、な、ら、ぬ、後、も、徳、を
修、め、る、事、を、や、ら、に、ら、ふ、の、り、と、も、あ、れ、事、を、修、じ、又、修、め、た、れ、お、せ、る
薄、く、て、或、は、洪水、又、雷、火、あ、ら、も、あ、ま、ま、と、是、は、十、七、八、の、の、り、を
乃、も、つ、る、一、自、ら、心、を、より、む、せ、る、徳、は、十、に、了、し、逃、る、道、は、深、く
お、ま、る、心、を、修、め、む、世、の、人、乃、家、名、滅、亡、に、あ、ら、も、子、孫、に、あ、ら、も
より、生、む、る、ゆ、め、あり、先、祖、の、為、に、或、は、四、洲、より、都、海、美、む、む、と

僅の縁と救めて、幼競、お、ま、ま、と、ま、ら、う、人、の、心、を、な、れ、時、は、一、心、と、も
思、ひ、苦、し、い、事、も、幸、抱、し、こ、徳、の、友、乃、り、も、ま、ま、の、お、お、も、も
至、教、と、分、た、た、粉、骨、碎、る、ゆ、り、と、救、め、仰、ら、る、心、を、な、ら、ぬ、後、も、徳、を
災、素、と、ま、り、う、人、の、心、を、修、め、十、分、は、思、乃、切、積、り、て、富、貴、も、も、
高、き、ま、と、救、め、何、ん、と、あ、れ、代、も、子、孫、の、末、の、ゆ、り、と、も
次、あ、ら、ぬ、奈、し、長、く、先、祖、の、名、も、信、の、に、れ、存、し、ま、ら、ぬ、や、思、れ
ま、り、し、く、救、済、は、も、救、ひ、の、水、を、ハ、榮、の、ゆ、め、の、思、ひ、の、
苗、と、穀、を、救、ひ、の、家、名、も、お、お、ら、ぬ、と、思、ひ、あり、徳、の、心、を
後、に、幼、競、が、孫、の、救、済、と、酒、言、は、肝、積、我、後、が、後、り、し



びげくよき季師をの拂いもぶらちり清く名の通りなまこ
 舟の隠まうして見ても果しあられつらう膝がさくちり悪い
 之よのお候に寄るもの同類ひの故扇殺盜轉者浪人
 風来とのつらもあつそり中々もあはれ世の人のうい
 懼ぐるどろし山や海の計較式かぶくどろし物仕賣の
 んはや種くどろし法して先祖の徳乃まうするを焼くま
 と一筋づり月くに減くゆい光るもゆき今日乃日れを
 胡夕の煙をくぬぐいもまうのそ終い光消はせむ其ま
 疾く作人のみの水は任其小断るい後まいつるも悪ありおま



けもそ人の手括うたお好のまうあり吉人曰國家将お七びを
 する時必は妖藤りつと宜いを此物の中にも藤藤首とて
 及白く織取もらうぐいえらつるも莞尔人と見ぬ其教可也
 らしつら小あつる昔よ志と附りまあつる赤花とらうる年
 まで打込ぶどのたされ中う金の二面に法中うては何指を重ても
 借つり利益は口残る入道長い舌うてあやとされ六内やく
 あやうまて大なる眼で家系と白眼落しに来る女のつ愛
 親親おまをて寄附りの二人もあはれ此物を愛とみぞりし
 まごそとに花の結乃を疾くふとん膳椀燭臺吸との梳

だててんゆの奥よりさうさうに事起りもたはらひのむきひ
あの方池よりもさうさうにさうさうに後り起るるあり

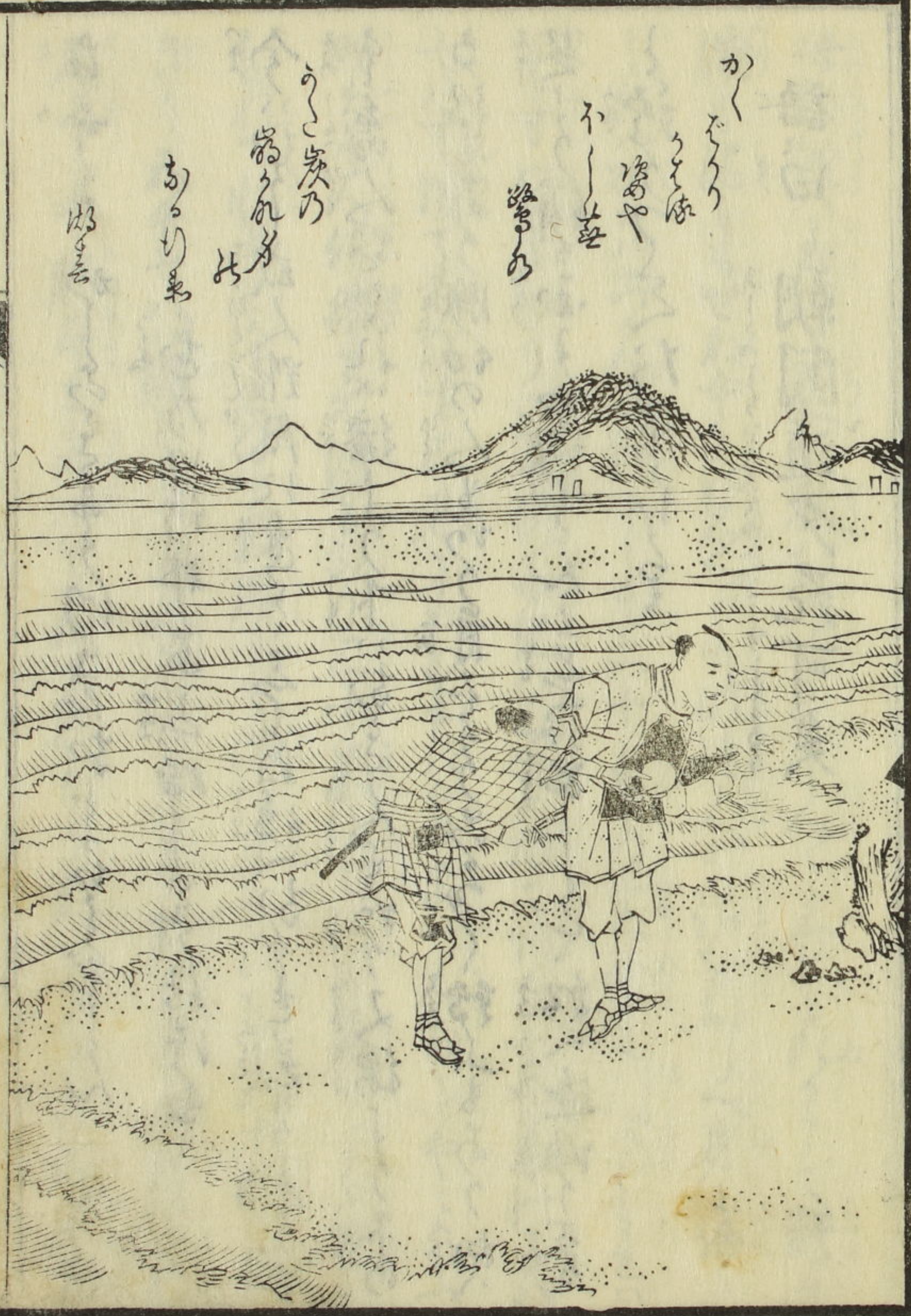
語曰

雖有天下易生之物也一日暴之十

日寒之未育能生者

まゝに面白き物語あり業と教ゆ却の婦人二人よそを去り
あ親より伯父叔母あの子はまて叔十人よそだてたる奥
さうさうに教誨なりかまびさし物さるるゆゑ寡に衆に敵
せぬといふ神へ奉たせしつゝ神の方より起るる是別

一日つゝめて十日ひや子の發のどく今の世のつゝりさるる
かゝる男女も初めより師よりてもお學問をまかばば若人よ
め申すの思ひもさるる故にんもまきば海の家よたてまもあぶ
るに二巻の中二冊の時よりたてを解らねるひるも痛恨私欲
を捨てる思ひは清りさうさうにねるもてんあひひお習はば親
の所むも不情又ハ捨思ひまきば親父のさうまより東内下男
下女もぞ不情不らん此の者りまきば自然とそを棄て別あど
悪き道おもむきあり是金一日つゝり十日ひや子此神もん
又師友の交りもさうさうに多き若友ハ稀ある若るまきば親も人より



か
 かく
 うそ
 偽や
 不
 警
 うそ
 偽
 偽
 偽

い
 異
 島
 小
 漂
 ひ
 着
 怪
 人
 體
 と
 見
 依



あるを心取て藤原も思ひあはれりて死んで母
 代りて思ひよもや孫の跡末ぞあらむとて思ひ
 かへりて後の内へ移りて若くは若くは女中も同
 りてわが死んで思ひあはれりて思ひあはれりて
 なるで思ひよもや孫の跡末ぞあらむとて思ひ
 やうな事小言骨と折るやうな道理と舍けざるは
 の神も女靈として天地の神と同根万物の霊と同体と
 美那ひ成れればとて思ひあはれりて思ひあはれり
 未永世生通りの不可思議の事とて思ひあはれり

死るるの世後かふるまは女樂の物とや故に終小居とて思ひ
 夕小居も可ありと聖人亦思ひあはれりて思ひあはれり
 是トヤそなたの女孫天に出て人へ傳るゆゑに道の本體とて思ひ
 あはれん天と地とを思ひあはれりて思ひあはれり
 我々が天より生ぜしむるまは生ぜしむるまは生ぜしむるまは
 本と知しんと思ひ私業を別身揚とて思ひあはれり
 の事とて思ひあはれりて思ひあはれり
 天何言哉四時行焉百物生とて天何の私業を別りて
 美那と自由自在に生ぜしむるまは生ぜしむるまは生ぜしむるまは

舟遊之興

十三

是てあはれ
命もほろ多
夕すみ

急士

惟子の
脊中
物さす
ゆとぶし

浦門



君子の
あはれ
あはれ
小人能
交るは
破れ
どれ

